

## 令和2年（2020年）はいかなる年か

「七赤金星・庚（かのえ）・子（ね・ねずみ）・壁上土（へきじょうど）」

カナダ株式会社 代表取締役社長 金田康男

カナダ(株)金田社長による恒例の今年の「いかなる年か」をご紹介します。

- ◆ 本年は「七赤金星」が中宮に入り「七赤金星」の象意が各方面に強い影響を与える年となります。
- 「七赤金星」は、易の「兌」にあたり、「兌」は「澤」と同じで「澤」は水が集まってできるように物が潤い、万物が成長することから「七赤金星」は別名「悦びの星」「遊興の星」「金銭・金融の星」と呼んでいます。
- 「兌」は「一陰・二陽」であり、「常に不平不満があつて満足することが出来ず」、悦びの面と不足の面、またプラス面とマイナス面の両面が現れる年となります。
- 「七赤金星」は「金銭・金融の星」であり、この星が「五黄土星」の定位である中宮に在泊するため良きにつけ悪しきにつけ金銭・金融関連が話題の中心となる年となります。中宮を定位置とする「五黄土星」は「革命・破壊・壊乱の星」とも言われ、また、「七赤金星」の「兌」の定位に「顕現作用」のある「九紫火星」が在泊するため今年は「金銭や金融に纏わるスキャンダル」が明るみにでてくる可能性があります。
- 経済面で見ると「七赤金星」が五黄土星の中宮にあるため経済や金融は不安含みの変則的な経済展開の年となりますが、一方「七赤金星」は「遊興の星」でもあり「娯楽や遊興」に関連するビジネスや「兌＝口」と関連する食品業界などが盛んとなると思われます。
- ただし、「兌＝口」の象意の「七赤金星」が「腐敗・破壊」の象意をもつ「五黄土星」の中宮に位置し、また、「七赤金星」の定位である「兌宮」が「暗剣殺」となるため食中毒にも注意が必要となります。
- しかしながら、中小企業の星である「二黒土星」が前厄の「離宮」に入り、且つ今年の「凶神・歳破」が「離宮」の「午」の方角にあることから中小企業にとっては金銭の出入りの激しい年となり財務をしっかりとした堅実経営が望まれます。
- 今年は「五黄土星」が「震宮・東の方角」にあり、この方角が五黄殺となります。従って九紫火星の位置する「兌宮・西の方角」が「暗剣殺」となり、また、「歳破」が「午・南の方角」に位置することからこれらの方角に注意が必要となります。
- 今年の「恵方」は「庚・西南西の方角」となりますが「暗剣殺」の方角と重なるため恵方の役割を果たせません。
- 「風」の象意の「四緑木星」が裏鬼門に入るためインフルエンザなどの流行が懸念され、特に暗剣殺の西の方角から流行病に注意が必要となります。
- 「政治・企業の星」である「六白金星」が風の象意をもつ「四緑木星」の定位である「巽宮＝明展宮」に在泊することから貿易が活発となる可能性があります。また、政治的には良し悪しは別として外交が活発化することが予想されます。
- 「九紫火星」が「七赤金星」の定位の「宮」に入り、「兌宮」が今年の暗剣殺となります。「兌」は「口」の象意があり「口が災いのもと」となることもありますので政治家や経営者、そして家庭においても言動に注意をしなければなりません。
- 「九紫火星」が「暗剣殺」に入るため契約書や印鑑などの取り扱いや文章のトラブルにも要注意。
- 「七赤金星」は「少女」の象意もあるので今年は若い女子社員の意見も取り入れると良い。
- 納音の「壁上土」は大地の力と繋がっていない土の状態で本来の土の力ではなく壁土でしか用をなさないという意味であり何かと不安定な年となりそうです。

## 本年の社会・経済について

- ◆「庚」は「継続と償いと更新」の意・「結実した後に草木が一新する」の意味を持ち、また、「子」は「産む・万物が生い茂る・蔓延る」・「万物が一旦終わりを告げ新たに始まる」の意味をもつため政治や社会、経済でも新しい方向性や時代が見えてくる可能性があります。経営的に見ると「引き継ぐべきものは引き継ぎ、改めねばならないものは勇気をもって改め、新たな一步を踏み出す」を意味する干支となります。また、争いの象意のある「九紫火星」が西が暗剣殺に在泊するため西の方角で発生する災い、西の方角からやってくる災いが社会や経済にも影響を及ぼすことがありそうです
- 今年の本卦「澤風大過」から見ると「物事が過剰過ぎて陰陽のバランスが崩れやすくなる」の象意で「過ぎたるは及ばざるが如し」といい、万事に関して過剰は良くなく、目標の達成には何事にも辛抱強く、状況が転ずるまで実力を磨きつつ時期を待ち慎重に進めることが肝要。不釣り合いを避け、何事にも身分相応を心掛けること。このことは政治経済においても同様です。上下が弱く中が強すぎてバランスを欠いている状態なので強い意志をもちながら中庸を貫くことが求められています。

## 「七赤金星」年の災害について

- ◆「子」は水性の陽であり、七赤金星の「澤」とあいまって「水」が強く影響する年となりそうです。納音の「壁上土」は大地の力に繋がっていないので壁土としての用しか果たせない盛り土の意味を持つので堤防の決壊などによる水害が多発する危険性があります。
- ◆南の「九紫火星」の定位に「歳破」が在泊するため南で台風が多く発生する可能性があります。
- ◆本卦の「澤風大過」も水や風が多過ぎて問題が発生するということから台風に注意の年となります。
- ◆風の象意をもつ「四緑木星」が裏鬼門の位置に在泊し、「水」の象意の「一泊水星」が表鬼門に在泊するためやはり風水害には要注意となります。
- ◆「破壊」の象意をもつ「五黄土星」が「震宮」に在泊するので地震にも注意が必要となります。特に「歳破」の位置する南の方角、「五黄殺」の東の方角、「暗剣殺」の西の方角は要注意。
- ◆「火」の「九紫火星」が暗剣殺に「破壊」の「五黄土星」が「雷」の象意をもつ「震宮」に在泊するため火災と雷災にも注意。特に漏電による火災には気を付けること。

## 生まれ年による運勢（福運を招くために本年の留意すべき事項）

※節分（2月3日頃）までに生まれた人は前年の星となる。

- ◆ 一白水星　大正7・昭和2・11・20・29・38・47・56・平成2・11・20・29
- 本命星の「一白水星」が東北の艮宮(変展宮)に入り、「表鬼門」「因厄」の年となる。艮宮には「物事の初めと終わり」の意味があり節目を表しており変化変動の生じやすい不安定な年となる。ただし、起死回生の年ともなり得る。
- ① 艮宮(変展宮)に入り、変化変動の生じやすい不安定な年。何事にも惑わされず、現状維持に努め、冷静沈着に対処する心構えが大切。
- ② 先祖供養・年回法要の大切な年(過去帳を調べよ。年忌該当のご先祖様がいるはず、自分自身で盛大に法要を営むこと)。但し、建碑、建墓、仏壇の新調は避けること。
- ③ 事業面や営業面でも、後日トラブルを起こさないように文書、捺印等の確認を怠らないこと。友人・知人といえども金銭の貸借は慎むこと。
- ④ 対人関係では、仲介、仲裁、訴訟、調停沙汰などの一切の揉め事は極力避け、和に心掛けよ。
- ⑤ 家族間、親族縁者間のトラブルが起りやすい傾向あり、互いにコミュニケーションに努めること。

- ⑥ 異性関係においても、変化変動を生じやすい年です。恋愛中の人にとっては心変わりや、既婚者にとっては不倫の危険性がある。腐れ縁とならないように。
- ⑦ 健康面では、持病の再発、自律神経疾患、胃腸、関節関係疾患、原因不明の病名と病気に注意。また交通事故、転落事故、火災などによる怪我、打撲傷などにも注意すること。
- ⑧ 今年の疾病は、先祖(水子も含む)の因縁を受けているので、年中行事の仏事には率先協力し、彼岸・盆・命日など忘れぬよう、節分には厄除け、除災、身体健全等の祈願及び断ち物をする事。

◆ **二黒土星 大正 6・昭和元・10・19・28・37・46・55・平成元・10・19・28**

- 本命星の「二黒土星」が南の離宮(陽展宮)に入り陰陽両方が作用する「前厄」の年となり吉凶が半ばし、隠し事や善悪が表面化する年。真面目に努力を重ねた人には良い結果が表面化して花咲く年となる。ただし、問題が発生した時には迅速に解決することが望まれる年だが、焦りや行き過ぎには要注意。
- ① 前厄になるため諸事慎重かつ敏速に対処すること(先手必勝のチャンスを逃がすな)。焦りや行き過ぎは禁物。今年は後半も良い運点だが、来年は本命星が坎宮に入るため後半(8月24日以降)は衰運に向かうことを自覚せよ。
- ② 『顕現作用』の象意あり、書類や印鑑の取り扱いには慎重に。特に保証事は避けるほうが賢明です。約束や契約事などは、後日トラブルを起こさないように正式な書類にしておくことが肝要です。
- ③ 『離合集散』の象意あり、親しい人との離別、新しい人との出会い、人事の入れ替わりなどの転勤、退職などが起こりやすい。特に目的のない退職は、身の破滅を招くことになるので慎重に。
- ④ 火難発生の恐れあり、火の取り扱いに注意すること(電気・ガス等の確認を施行する)。旅先では、非常口の確認を忘れずに、また盗難にも要注意。
- ⑤ 事業面や営業面では、表面上好調に見えても内容に乏しく安定性にも欠けるので、無駄な出費を抑え収支のバランスに気を配り堅実経営に努めること。外交面では海外旅行、内外の展示会等で見聞を広げるには好期。吉月、吉日、吉方位を求めて実施すること。
- ⑥ 健康面では、焦りや苛立ちからの精神的動揺、ストレス等が起因となり不眠症やノイローゼなど心因性の病気にかかりやすいので要注意、また交通事故や転落事故にも注意せよ。
- ⑦ 厄除け、願掛けの断ち物、又節分には家内安全、年中安泰、除災得幸などの祈願をするのも開運への一方策です。

◆ **三碧木星 大正 5・14・昭和 9・18・27・36・45・54・63・平成 9・18・27**

- 本命星の「三碧木星」が北の坎宮(耐展宮)に入り、9年周期で10年に一度巡ってくる運氣最低の年に加えて「本厄」の年となり忍耐の年でもある
- ① 運氣最低な『本厄』の年を自覚し、『石橋を叩いて渡る』慎重さが必要です。将来のためのエネルギーの蓄積を心掛けること。外交面より内面の充実に努めること。
- ② 交友関係、遊興関係での浪費傾向あり、収支のバランスに心掛けよ。金銭の貸借や保証事は極力避けること、また孤立に陥りやすい傾向もある(人との和を心掛け、待つ事の出来る人になれ)。
- ③ 異性問題が生じやすく、深刻化する傾向があります。今年関係をもった異性は、5年間の悪縁となって悩む恐れあり、冷静に理性をもって対処すること。
- ④ 色情の因縁から中絶、流産、死産など、水子の悪い因縁を背負い込む恐れがあります(墓参、水子供養を大切に)。
- ⑤ 病難、色難、水難、盗難、交通事故等の突発事故に注意し、精神面の落ち着き、安定を得るため信仰を持ったり、稽古事に力を入れたり、家庭生活を第一に考え、コミュニケーションに努めること。

- ⑥ 健康面では『病魔潜入』の暗示あり、日頃から健康管理の大切な年。体調も崩れやすく、古病、持病の再発や慢性化に注意すること。長引く恐れあり、早期発見、早期治療が望まれます。
- ⑦ 『本厄』の年につき、厄除けの断ち物などを行い、節分には年中安泰、除災、厄除、身体健全等の祈願を受けるのも開運の道です。

◆ **四緑木星 大正 4・昭和 8・17・26・35・44・53・62・平成 8・17・26**

- 本命星の「四緑木星」が西南の坤宮(戒展宮)に入り、裏鬼門の「後厄」の年となるため年の前半は前年の停滞運気の影響を受けて苦しく、年後半(8月24日以降)から徐々に好転し、上昇気流となる。
- ① 『後厄』を自覚し、前年の低命運からの脱却を図るため、忍耐力、継続力を持って地道かつ、慎重に現状維持を基本として、準備計画をすること(後半：8月24日以降は上昇気流)。
- ② 『二黒同会』により『働く(はたらく)』を『傍(はた)楽(らく)』と考え、奉仕の精神で努力すること。
- ③ 事業面では、目上、先輩、有識者の良きアドバイスを仰ぎ、永年勤続者の表彰等の実施も開運への道です。「待つこと」「耐え忍ぶこと」「従うこと」「一步一步地道に努力すること」が未来への可能性となります。発展と信頼の基盤を築くための準備計画の期間の年とせよ。
- ④ 契約事や約束事は、後日トラブルを起こさないように慎重に(保証事、仲介事、捺印等要注意)。
- ⑤ 親族との別れや親戚関係のトラブルが起こりやすい。年回法要、墓参等を大切に。長期疾病は祖先の因縁によるものと心せよ。
- ⑥ 『後厄』の年につき、厄災除けの断ち物や節分の年中安泰祈願、恵方詣り、墓参等をするのも開運への1つの方法です。
- ⑦ 健康面ではあまり良好とはいえない。本命月(8月)の本命の日(11日、20日、29日、9月7日)に健康診断を受け、早期発見、早期治療を心掛けること。

◆ **五黄土星 大正 3・12・昭和 7・16・25・34・43・52・61・平成 7・16・25**

- 本命星の「五黄土星」が震宮(躍展宮)に入り、運勢も陽に転じ、希望、発展、顕現などの象意により、活気に満ちた年となる。四年間の低迷期を脱して盛運の段階に入る。「震」は「顛れる、伸びる」の象意をもっている。
- ① 過去4年間の衰運気を脱し、積極的に行動できる開運の年です。但し舌禍に注意し人とのコミュニケーションを大切にし、諸事冷静に対処することです。
- ② 何事においても、即決即行が決め手であるが、準備不足や勇み足及び目先の欲や利潤のみの追求は、墓穴を掘る結果となる。自制心を大切に(足るを知る心)。
- ③ 人間関係の拡大に伴い、行き過ぎや短気、舌禍に注意し、周囲との調和と協調を心掛け、甘言に乗らないこと。また収支バランスの崩壊などの危険性もあります。
- ④ 結婚を前提とした異性に巡り合う絶好のチャンスの年、真面目で心の通った交際を心掛けること。
- ⑤ 新規事業などは、以前から準備計画していた事柄なら良好です。但し方位や相生・相剋(共同事業などの場合)を、無視しないこと。
- ⑥ 今年は、火難、雷難の危険年です。電気やガス等の点検、管理に心掛けること。また焚火やタバコなどの火の後始末を確実にすること。
- ⑦ 健康面においては、さほど心配ないと思われませんが、暴飲暴食を避け、「新陳代謝」を意味するところから、古病、持病の再発、悪性の腫れ物などに注意すること。早期発見、早期治療が必要。

◆ 六白金星 大正 2・11・昭和 6・15・24・33・42・51・60・平成 6・15・24

- 本命星の「六白金星」が東南の巽宮(明展宮)に入り完成の喜びを味わう運氣好調な盛運年となる。今までの地道な努力と苦勞が実り事業や人間関係で相当の発展と進歩がみられて活躍できる年。
- ① 運氣好調な盛運年。「信用、遠方、交流、調整、整う、喜び」等の象意を持つ福運年。但し『歳破』の年回りなので、期待はずれ、約束破りの事象がありますから慎重に対処すること。
- ② 信用第一に心掛け、遠方の取引にツキが発揮されます。自信をもって行動せよ。旅行においては、自分が世話役にまわれば信用はつくが実利なし。特に派手さから予算や経費の超過が心配されます。
- ③ 営業面での特徴として全ての事柄が長引く傾向あり。適格な情報を元に、即決即行で慎重に対処せよ。利潤追及のみに走り過ぎないように、奉仕の精神を忘れないよう心掛けること(世話役に好機)。
- ④ 対人運では、世話事や相談事も増える傾向がある。『歳破』の影響に注意して、空約束や曖昧な態度は慎み、誠意を尽くし見返りを考えない奉仕の精神こそ大切。
- ⑤ 適齢期の男女にとっては、縁談や結婚の整いやすい年。吉方からの縁を大切に、長引く傾向があるが焦らず慎重に取り組むこと。
- ⑥ 公私共に多用となり、人間関係にヒビが入りかねません。仕事と家庭と朋友との板挟みでバランスを崩さないよう、コミュニケーションを大切にすること。
- ⑦ 健康面では、季節の変わり目や疲労の蓄積、暴飲暴食に注意し、充分休養を取ること。祖先の墓参(ご命日詣り)を心掛け、水子に因縁のある方は、供養を大切に。

◆ 七赤金星 大正 10・昭和 5・14・23・32・41・50・59・平成 5・14・23

- 本年は本命星である「七赤金星」が中央の観心宮(自尊宮)に入り「命厄」の年として 10 年に一度の総決算の年となり、今までの生活や行動の結果が評価される年となる。
- ① 俗に言う『八方塞がり』の年、過去 9 年間の総決算の年で、反省の年と心得よ。また 9 年周期で 10 年先までの人生設計、生活設計を立て直すのに良い年。
- ② 中宮(観心宮)に入り、静観して動かず現状維持に努めよ。運勢上の浮き沈みの変化変動の大きい波乱含みの年で、諸事結論を求められる年になります。心して対処せよ。
- ③ 先祖供養の大切な年。他人まかせにせず、自ら上品(ジョウボン)の孝養に心掛けること(今年は特に先祖供養とお盆及び彼岸等の供養を大切に)。
- ④ 事業面や営業面では、五黄土星の悪影響(五黄同会)を受け、好不調の落差が大きく的確な判断力が必要。また新規の事業や計画の実施は、慎重さが必要。
- ⑤ 3 月と 12 月の「七赤金星」の日(3/7、3/16、3/25、4/3、12/13、12/22)は、9 年に一度の大切な盛運日として活用すること(開店、改名、襲名には吉)また健康診断にも最適な日。
- ⑥ 健康面は、体調の変化を生じやすい傾向がある。持病、古病の再発、また病気治療中の人は、悪化しやすい傾向があり、過労からの疾病に要注意(自宅療養より、短期吉方位の診療)。また交通事故、突発事故等にも注意。
- ⑦ 『命厄』の年につき、節分には厄除けの断ち物などを行い、自身を歓苦型人間に磨き上げること。

◆ 八白土星 大正 9・昭和 4・13・22・31・40・49・58・平成 4・13・22・31

- 本命星の「八白土星」が西北の乾宮(伸展宮)に入り活動の年となり、積極的に取り組むことで才能、手腕、力量が十二分に発揮され、また、乾宮は「収納」の象意もあるので成果があがるチャンスとなる。自信と勇気に溢れ、充実した気分になりますが、自信過剰になり独断専行や高飛車な態度や舌禍を戒めないと協力者を失うことがあり、折角の運氣を失う結果が生じるので要注意。

- ① 運氣充実して、強運の年。力量を発揮し積極的に行動できる年ですが、奉仕の精神で諸事焦らず、慎重に対応するように心掛けること。
- ② 独断専行を慎み、人間関係の和に努め、先輩や有識者の意見、助言、忠告に耳を傾け、又部下の意見も受け入れる心の広さと余裕を持つこと。
- ③ 公私共に多用(その割には実利なし)となり、人間関係にヒビが入りかねません。仕事や家庭でのコミュニケーションを大切にすること。
- ④ 経済面は、投資や大口取引には現状を見極めて、計画的に進めること、予算超過とならぬ様、収支のバランスに注意すること。
- ⑤ 稽古事や趣味を活用して、新知識を求めるのに好機です。老後の為に学ぶ姿勢を大切に、生涯学習の趣味を求める心掛けを持つこと。
- ⑥ 今年は特に仏壇、仏具、墓地の手入れ、新調には最良年。また仏壇の修理、リサイクルするにも良好な年です。仏事法要、墓参など大切にすること。
- ⑦ 健康面では、心身の疲れや神経の乱れる傾向があり、睡眠と休養を取れるように心掛けること。又、交通事故、転落事故、突発事故等にも注意。

◆ 九紫火星 大正 8・昭和 3・12・21・30・39・48・57・平成 3・12・21・30

- 本命星の「九紫火星」が酉の兌宮(福展宮)に入り、「収穫」の吉の面と「日没」の凶の面とが複雑に交錯する年となるため、諸事慎重かつ迅速に対処し、また、自らは現状維持を心掛けること。
- ① 喜びと不安の両面を兼ね備えた年で、運氣も後半より衰運に向かうので舌禍に注意し、慎重かつ迅速に対処すること。
- ② 新規事業や計画の実施は延期し、現状維持に心掛け、堅実経営に専念すること。但し、以前から計画していた場合は年の前半までは実施可能。
- ③ 金運には恵まれるが、出費オーバーの傾向あり、収支のバランスに心掛け、事業面や営業面では緊縮財政で堅実経営に努めること。
- ④ 人間関係も拡大傾向にあり、異性との出会いも多い年。但し、トラブルも発生しやすいので他人まかせにせず、冷静に対処すること。独身者は、結婚の好機、出会いを大切に。
- ⑤ 趣味、稽古事など、自己研鑽に励むこと、学びの姿勢を豊かに。
- ⑥ 新築、増改築、開店、開業、建碑、建墓、移転、旅行等は、8月23日頃までの前半に実施すること。
- ⑦ 健康面では、不摂生から体調を崩しやすく、心身の疲労、暴飲暴食を慎み、健康管理と休養に心掛けること。交通事故、刃物による怪我、災難、女性は異性関係や痴漢、ストーカーに注意。

\* 「易は 当たるも八卦・当たらぬも八卦」とご承知ください。

参考文献

運研	井上慶亮氏
易経講和	公田連太郎氏
干支の活学	安岡正篤氏
易学入門	安岡正篤氏
マーフィの易占い	ジョセフ・マーフィ氏
陰陽道	長原芳郎氏
高島易断所	高島吞象氏
日本の自然災害	国会資料編纂会